



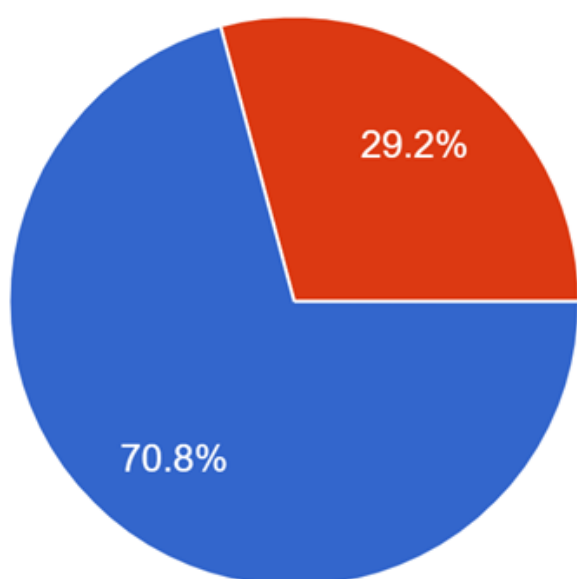
首都圏土壌医の会の今後の活動に関するアンケート

会員の皆様から、ご意見を伺わせて頂きたくアンケートのご協力をお願い致します。
回答には10分程度お時間を頂きますがよろしくお願ひします。

集計結果

2) 会員の種別

24件の回答



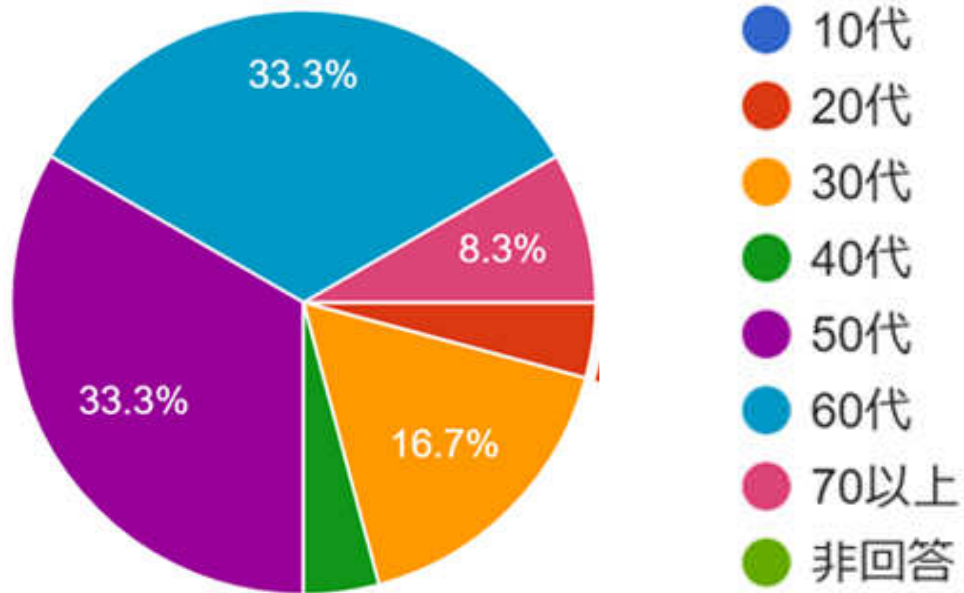
● 正会員

● 準会員

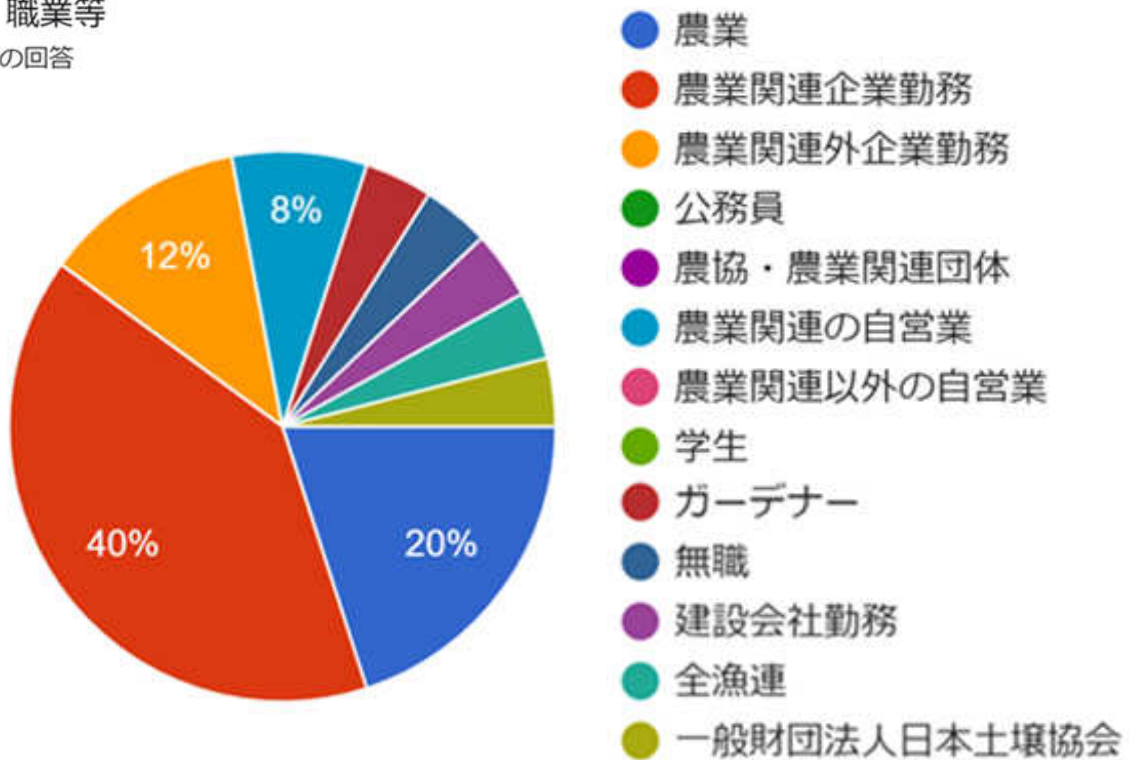
回答者	24名	(52)
正会員	17名	(39)
準会員	7名	(13)

() 内は全会員数

3) 年齢
24 件の回答

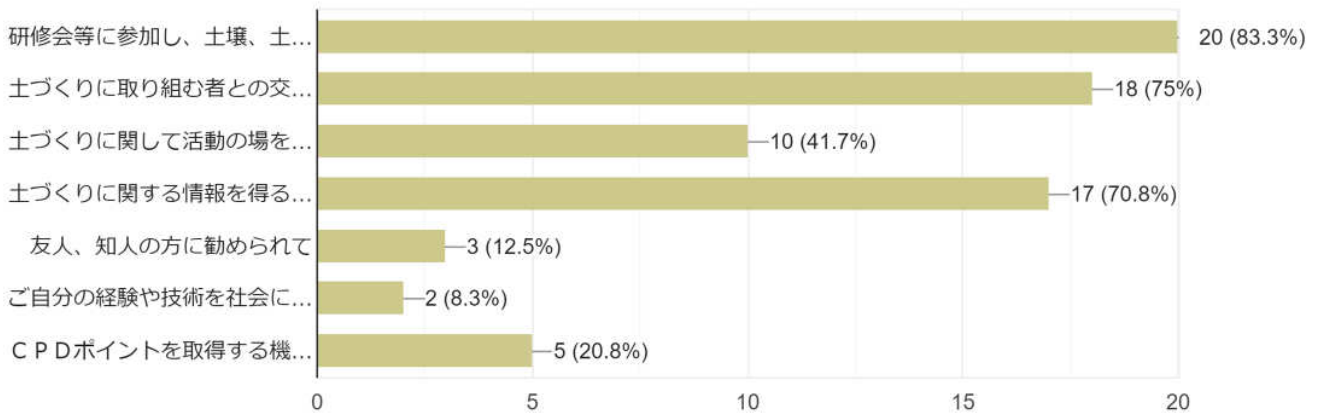


4) 職業等
25 件の回答



1) 首都圏土壌医の会に入会された理由を選択してください（複数回答可）

24件の回答



研修会等に参加し、土壌、土づくり等の研鑽を図ることが出来ると思ったから

土づくりに取り組む者との交流を図ることが出来ると思ったから

土づくりに関して活動の場を得ることが出来ると思ったから

土づくりに関する情報を得ることが出来ると思ったから

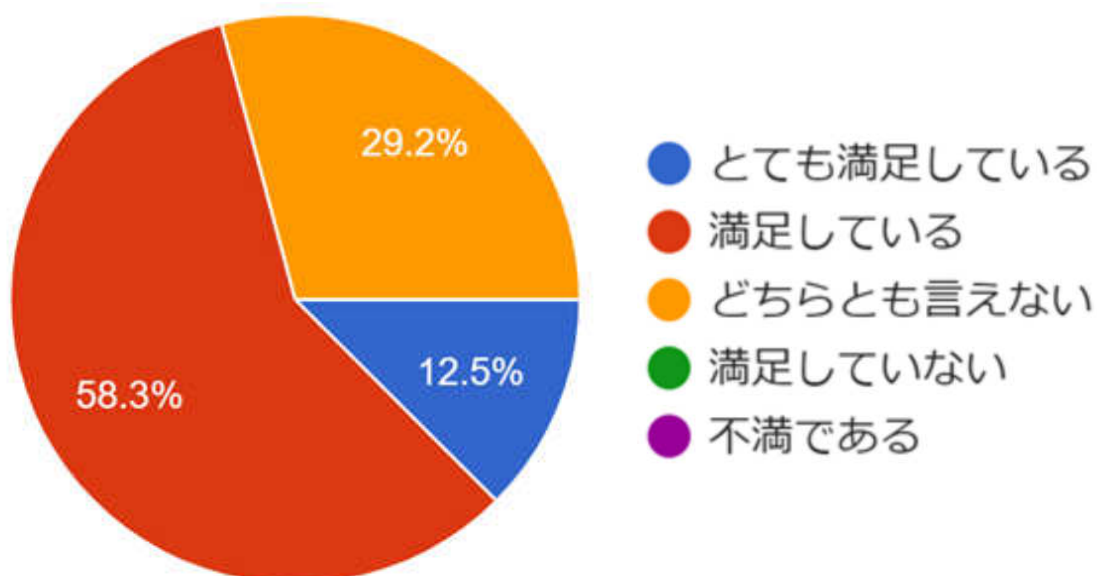
友人、知人の方に勧められて

ご自分の経験や技術を社会に活かすことが出来ると思ったから

C P Dポイントを取得する機会が得られると思ったから

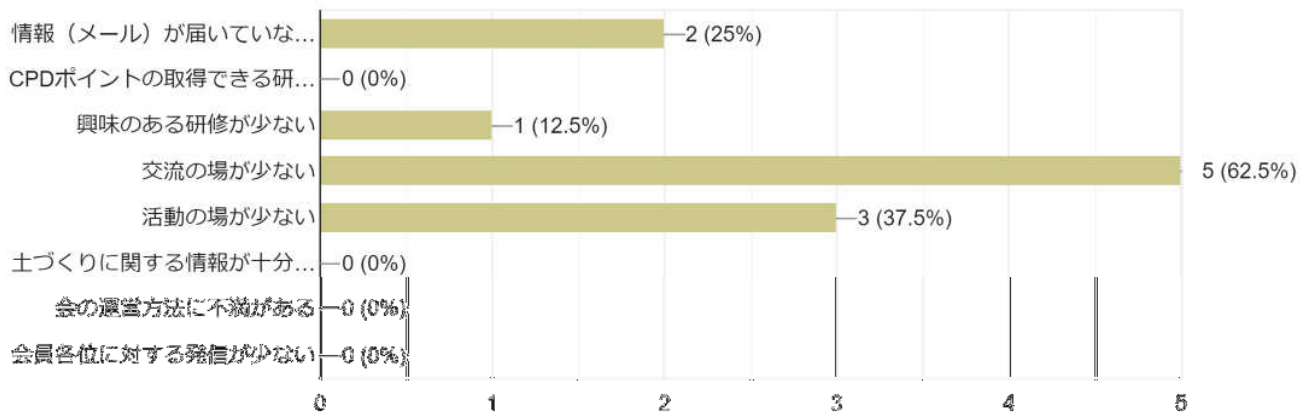
2) 首都圏土壌医の会の活動に対する満足度について

24件の回答



3) どちらとも言えない、満足していない、不満で...、その理由をお聞かせ願います。(複数回答可)

8件の回答



情報(メール)が届いていない場合がある

CPDポイントの取得できる研修機会が少ない

興味のある研修が少ない

交流の場が少ない

活動の場が少ない

土づくりに関する情報が十分に得られない

会の運営方法に不満がある

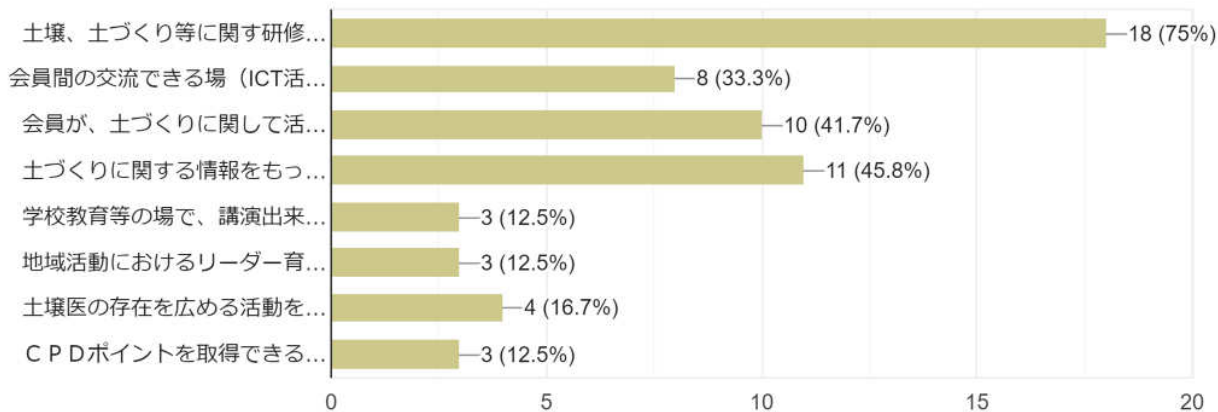
会員各位に対する発信が少ない

その他、現在の首都圏土壌医の会に対する不満足な部分、満足な部分についてお聞かせ願います

- 実習が遠くて参加できません。仕方ないと思ってますが
- 満足、不満足の前に、私自信の仕事が忙しく、参加出来ない状況に在ります。
- 土壌について個人の知識では足りない部分を、ある程度補える安心感が持てるような気がします。
- 満足な部分は、コロナ禍になってもズームで勉強の機会を作ってもらって感謝しています。
- 不満足な部分は、部会活動がなかった点。
- コロナ禍でも、オンライン講義を設定してくださるなど、基本的には満足しています。ほかの部会との交流を図ったり、情報を知ることができると良いと思っています。
- コロナ禍で、屋内外での集合研修が出来ない状況で、皆様と直接お目にかかった面談が出来ない事は、寂しいです。打開策を一緒に考えたいです。
- コロナ禍にも関わらず、事務局の皆様には感謝しかありません。
- 現地研修など、これまで都合がつく限り参加させて頂きました。コロナ禍においては実施が難しい側面があると思いますが、コロナ終息後はぜひ再開頂ければありがたいです。本当は研究部会などにも積極的に参加させて頂きたい気持ちはあるものの、仕事との両立および時間の工面に踏み出せない状況が続いておりますが、参加できるように挑戦はしていきたいと考えております。
- コロナ禍でも研鑽の場を提供して頂いていることです。
- 首都圏というある程度広域な地域を対象としている点で、いろんな地域の人が集まるところが利点だと思います。幸いZOOMが活用できる環境になっているので、その距離も縮まっていると思います。

1) 今後、首都圏土壌医の会に期待する内容について、お聞かせ願います。(複数回答可)

24件の回答



土壌、土づくり等に関する研修の開催など、研鑽機会を増やしてほしい

会員間の交流できる場 (ICT活用を含む) を増やしてほしい

会員が、土づくりに関して活躍する場を作ってほしい

土づくりに関する情報をもっと提供してほしい

学校教育等の場で、講演出来る機会を作ってほしい

地域活動におけるリーダー育成の役割を担ってほしい

土壌医の存在を広める活動を行ってほしい

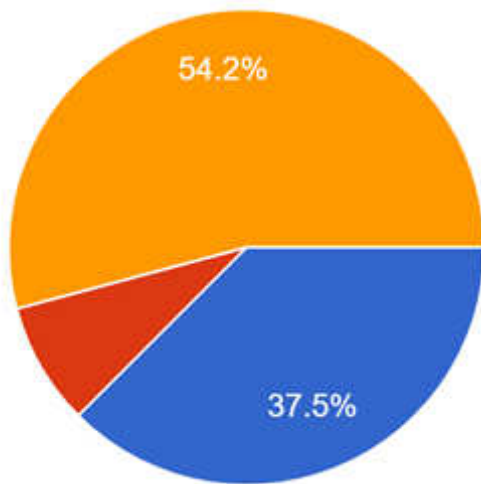
C P Dポイントを取得できる機会を増やしてほしい

4. 会員の研鑽、交流、活動の場を作っていく方法についてご意見をお聞かせ願います
皆様からのアイデア、ご意見、職場で実践なさっている改善手法をお聞かせ願います

- なかなか参加出来ない私としては、**何時でも時間が出来た時に、アクセスして情報が得られる窓口**を作って欲しいです。
- 土作りに関する**ライブラリ**等があると参考になる。例えば沢山あるバイオステミュラント資材などで、どう言うものがどういう効果が有るかなど。
- ウェブの**生映像で現場を説明して見せてくれる、質問もできて、行った気になる方法**。現場の説明や会社の研究所訪問を生映像の配信でやったらいかがでしょうか。ディスタンスの関係から実際行くのは5~10名くらいにして、後の人には配信するやり方でいかがでしょうか。私の希望として、片倉コープアグリ(株)の研究所を訪問したいと思っています。
- 圃場等屋外での現地調査等**、密にならずに実施できる範囲で研究イベントを再開できたら幸甚です。
- 現状、県境を越える移動はしにくいこともあり、自分自身の住まいがある**都内での研修**があるとよいと思っています。実施可能かや研鑽として認められるかなどわかりませんが、私の勤める会社で関わっている**都内公園 (農業公園や花壇管理を行っている公園) の見学**などを行い、公園等の土の状況を知るといった機会が提案できたらと考えています。私と同様に都内にお住まいで遠距離の移動を懸念されている方がいらっしゃるようでしたら、研修の一つとして検討したいと思っています。
- また、現状、**Zoom**研修が主となっていますが、都合が合わない場合も、**後日研修に参加できる (録画など)**と良いと思っています。勤務する会社では、そういった方法も行っています。
- コロナ対応を万全に行う形での、**少人数での活動**を一部実施。
- BCP**訓練の社内横展開を図る為、コンサル企業の方と、研修方法を模索中です。
- 良い仕組みが出来ましたら、皆様にご報告出来ましたらと存じます。
- 生憎、アイデアが浮かびません。
- 申し訳ありません。現状、**オンライン**以外の案が思い浮かびません。
- 会員への**いろんな会社の新技術紹介**等
- 今の状況では最善の方法だと感じます。収まったら交流、活動の場をお願いします。
- 屋外の現地研修会**であれば、適切な対策を取った上で開催できるのではないのでしょうか？
- 大学等も徐々に対面授業が始まっています。
- 現場のサポートが土壌医の役割の1つであるならば、**もっと現場の声を聞きたい**と思います。
- 一方、セミナーや講習会など、知識を深める機会は、**ZOOM**活用が効率的でいいと思います。
- コロナ禍の**ZOOM**活用はいいと思います。**ZOOM土壌医検定合格祝賀会**はどうでしょうか。

1) 会員を増やすことについて

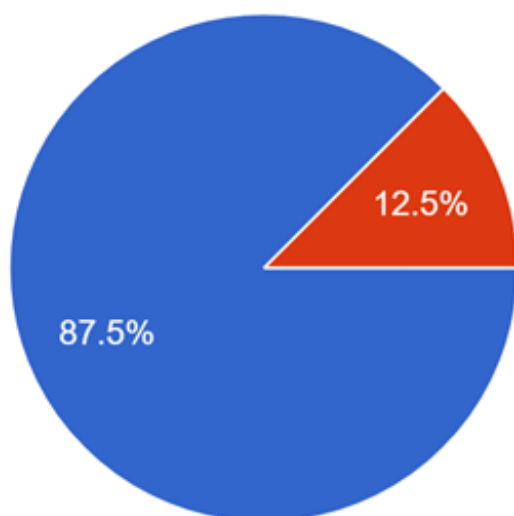
24件の回答



- 会員を積極的に増やして行く方向に賛同する
- 会員は、自然に増えるのを待つことがよい
- 活動内容の充実を図ることで、自ずと会の評価が高まり、増加することがよい
- 会員を増やす必要はない

2) 首都圏以外の登録者への勧誘について

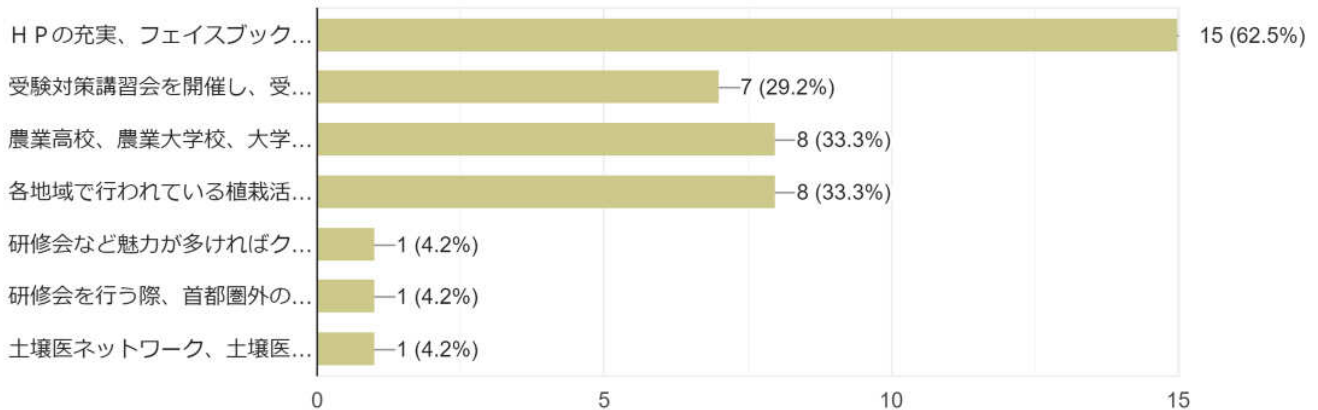
24件の回答



- 首都圏以外の登録者も会員に勧誘する
- 首都圏以外の登録者は会員に勧誘しない方がよい

3) 会員を増やす手段について

24件の回答



HPの充実、フェイスブック、インスタグラム等のSNSを利用する

受験対策講習会を開催し、受講者を会員に募集する

農業高校、農業大学校、大学農学部への進路指導、学生課を訪問し普及を図る

各地域で行われている植栽活動（花と緑の会等）での講師役を務め、普及を図る

研修会など魅力が多ければ口コミ等で増えるのではないだろうか
研修会を行う際、首都圏外の登録者に対して土壌協会の協力を得て広報する
土壌医ネットワーク、土壌医の会通信への投稿

実施して欲しい研修（土づくりのみならず、土づくりに関係するというだけで農業、園芸、家庭菜園、ガーデニング等に関する研修でも構いません）について是非お書きください。

- 土壌診断の読み方と、考え方、農協、土の会等
- 土壌検査キットみどり君についての講習
- 連作障害を防止するための微生物資材を使った安価で効果的な土壌改良資材の作り方、使い方等。
- 農業ハウス内での無農薬栽培の方法
- 土壌に関する新しい技術など情報提供があると嬉しいです。
- 家庭菜園、市民農園、ガーデニングにおける土づくり 伝統土壌改良（客土）「ドロツケ」について
- 堆肥の作り方と活用方法
- プランター栽培で使った土のリサイクルのより良い方法
- 家庭菜園（ベランダ菜園）でよくある病害虫とその対策
- 地域活動で、「花と緑の会」と言う名称で年に3回ぐらいの活動があります。その際に、お花の上手な植栽の方法や、長持ちさせるコツ等が説明出来ると嬉しいです。
- キュウリ農家さんで、根こぶせんちゅうに困っています。一緒に解決策を練りたいので知識や知恵を学びたいです。
- 処方箋の作成のプロセスの研修、
- 多種多様な植物を取り入れるガーデンでの土づくり
- モグラの撃退方法
- 土壌診断と減肥のテクニック、土壌の性質と施肥のポイント、栽培植物ごとの品質をあげるポイントおよびテクニック、SDGsと農業など
- プロの生産者以外のアマチュアの方（市民農園や家庭菜園）、プランターや鉢物向けの土の話も間口を広げるのに重要と考えます。
- 身近な野菜・園芸等についての土づくり研修。（土質により土づくりが違います。初歩から研修してくれる所がないように思います）
- 害虫対策 花卉、野菜、果物
- 土壌物理性の簡易検査方法
- バラ栽培のノウハウ、土づくり、害虫駆除ノウハウなど
- 国や地方の農業政策に関すること
- 農業法人に関すること
- IT技術を利用している生産者へのヒアリングや見学
- 生産者が使っている肥料や農薬の実態～何をどれくらい使っているのか？など
- 「持続可能」「SDGs」を主体とした土作や栽培管理

講師としてお招きしたい方がいましたらお書き願います

- 武田健
- 木嶋利男先生（伝統農法文化研究所（栃木市）主宰）
- 後藤逸男先生 東京農業大学 藤井一至先生 森林総合研究所
- 若林正吉先生
- 土壌学の松中照夫先生、藤原俊六郎先生、葡萄栽培家の小林和司先生、
- 食と農の健康研究所の渡辺和彦氏、『土 地球最後のナゾ 100億人を養う土壌を求めて』の藤井一至氏、東京農業大学名誉教授の後藤逸男氏
- 根の森田茂紀先生
- 「検証有機農業」などの著者の西尾道德先生
- 多種にわたる農業経験者
- 農研機構、帯広 池田先生 微生物専門

7. 会員の交流方法について、アイデアをお聞かせ願います

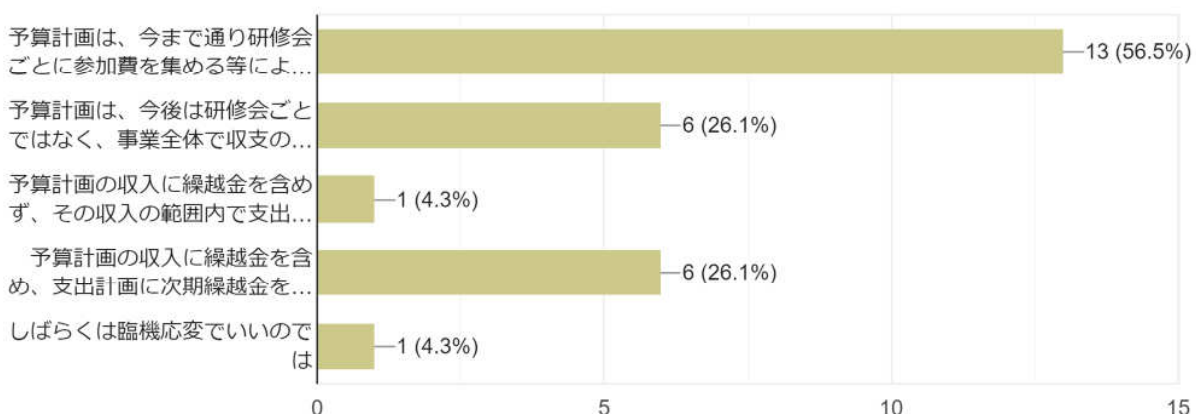
- 定期的にzoomなどで会員各位の顔が見える化を行なって、テーマを決め議論する。
- 上の3番目と5番目に賛成です
研修会開始時間を若干遅めに設定し、終了後のZoom飲み懇親会で交流を図る。
(コロナ禍が落ち着いて、安心して往来が出来るようになったら) 懇親旅行会を行う。
- メーリングリストの活用
- 毎月あるいはふた月に1回程度会員の土づくりの実践報告会を行う。
- ZOOMを利用した懇親会など
- コロナがおさまってからですが、会員の方のいろいろな活動場所を見学してみたいなと思っています。
- Zoom飲み、楽しいです。でも、マックス8人ぐらいかなと存じます。
- 現地集合現地解散での、圃場見学会の企画、読書会の開催。
- 各会員の得意分野を研修会で定期的に発表してもらう
- オンサイトでの交流はコロナ禍が終息したら行なうことが望ましいと思います。その上で、zoomなどを用いて会員の方が取り組まれている事例、課題、成功例を共有するような場を設けて頂くと良いのではないかと思います。講演のようなしっかりした内容ではなく、今、〇〇の収量が落ちてきて悩んでるとか、もっと作業効率を上げたいけど皆さんどうしてますか、とか会員の方が直目している課題について皆で解決策を模索する取り組みは参加者全員に貴重な体験となるのではないかと思います。
- 班を作り班単位での活動（少人数）募集～開催を掲示板などで告知。
- 小委員会活動が良いと思います。
- コロナ渦が落ち着いたら、農地見学（特徴のある土づくり）
- 特に考え付きません
- facebookやLINEの交換やグループの作成
- 各小委員会が集まりそれぞれの活動報告や意見交換をする機会があってもいいと思います

8. 会員の活躍の場の創出について、アイデアがありましたらお聞かせ願います。

- 農業大学の短期学科に対して講師をする
- 農業高校、農業大学等に積極的に出前研修を行う。
- 出前研修のためのマニュアルを作成する。
(研修項目)
土壌の物理性では、穴を掘っての実践的研修
土壌の化学性では、圃場のEC、pHの測定
土壌の生物性では、土壌動物の観察
等
- 研究部会で取り組んでいるが、首都圏土壌医の会で市民農園等小規模圃場の土づくりマニュアルを作成する。
- ガーデナーを対象としたガーデニング土づくりマニュアルを作成する。
- 各地にある市民菜園等での栽培相談や土づくり相談への協力（市役所等への働きかけ?）
- 上記の農業高校、農業大学の特別講師を務めることに賛成です。また、そのためにも首都圏土壌医の会としての発信が必要なのではないかと思えます。首都圏土壌医の会のホームページでコラム的なコーナーを作り、活動を周知していく方法も良いのではないかと思います。
- 小学校も楽しいかと思えます。若い内から草花や、樹木への興味を持ってほしいです。
- 過去（今後）の研修会で講師の発表を講師の方の了承を得て文字起こし（テープ起こし）して、報告集としてまとめる
- お悩み相談は非常に良いかと思えますが、先だって試験的に会員の皆様の中で行なって見るのがよいのではないのでしょうか。
- 会員それぞれの地域での農業関係イベントへの参加等、
- テーマを決めて新技術評価、結果発表
- 特にありません
- 地方自治体と連携した、一般市民向けの土づくりセミナーの開催
- 植樹祭等のボランティア活動
- データ駆動型土作り推進事業への積極的な参加

予算計画における収支について

23件の回答



予算計画は、今まで通り研修会ごとに参加費を集める等により、収支のバランスをとる

予算計画は、今後は研修会ごとではなく、事業全体で収支のバランスをとる

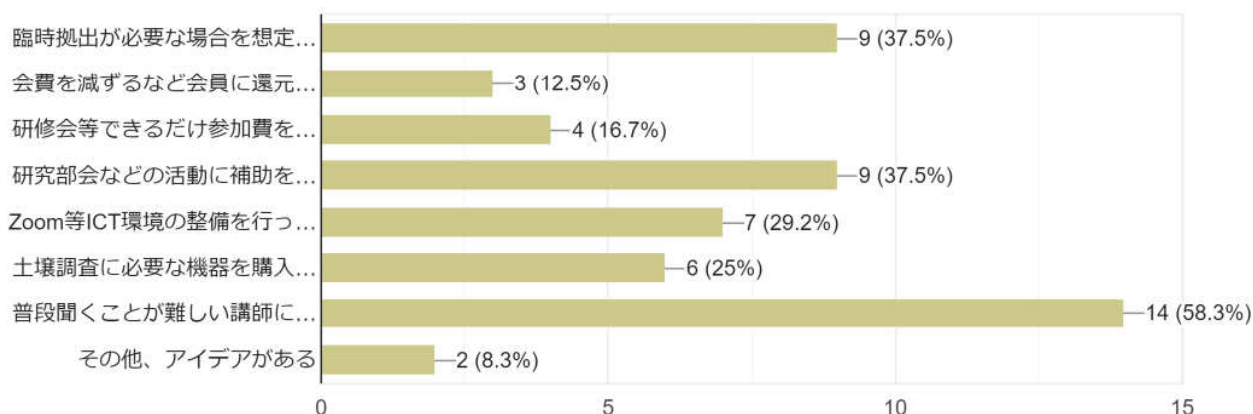
予算計画の収入に繰越金を含めず、その収入の範囲内で支出計画を立てる（繰越金には手を付けない）

予算計画の収入に繰越金を含め、支出計画に次期繰越金を含め計画を立てる（必要があれば繰越金の増減を認める）

しばらくは臨機応変でいいのでは

収支に余裕がある場合の効果的活用について

24件の回答



臨時拋出が必要な場合を想定し、繰越金として貯めておくことがよい

会費を減らすなど会員に還元したほうがよい

研修会等できるだけ参加費を無料としたほうがよい

研究部会などの活動に補助を行ったほうがよい

Zoom等ICT環境の整備を行ったほうがよい

土壌調査に必要な機器を購入し、会員に貸し出しを行ってはどうか

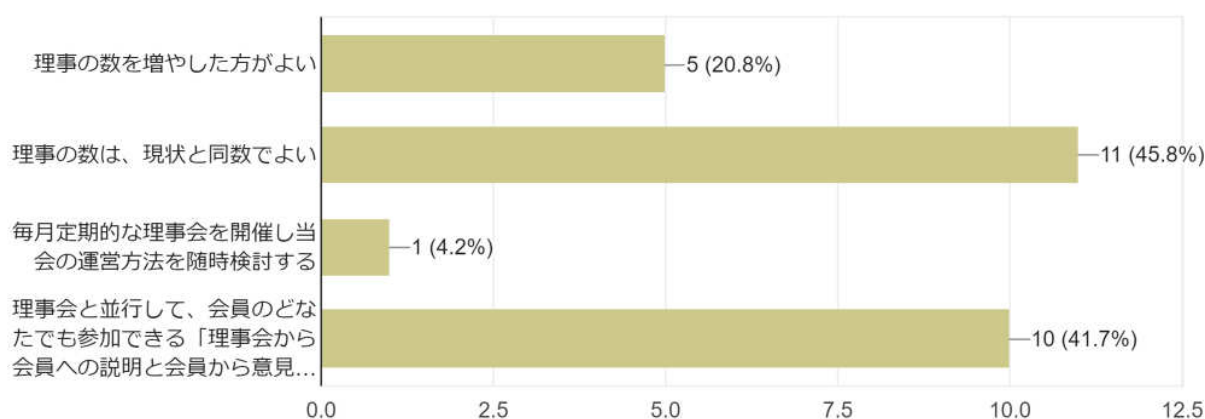
普段聞くことが難しい講師による研修会の開催をしてはどうか

上記の回答でアイデアがあるとお答え頂いた場合のアイデアについてお聞かせ願います

- 土壌調査に必要な機器（貫入式土壌硬度計など）を購入し、みんなで利用したらどうか
- 「土壌医」という言葉を初めて見て感じたのは、「樹木医」はテレビで見たことがあるが、「土壌医」は無いなということでした。メディア活用等、土壌医の認知度を向上させるために充てるのもいいかと思います。

このような状況の中で、今後の執行部の体制について、同感できるものがあれば、選択してください

24件の回答



理事会と並行して、会員のどなたでも参加できる「理事会から会員への説明と会員から意見を聞く交流会」を定期的を開催する

上記以外にも、今後の執行部の体制について、お考えがありましたら教えてください

- 理事の責任が重いと感じるが、事業運営に協力したいという人のための役を作る。
- 現状の理事の数が妥当なのかどうかは判断できないのですが、理事会と会員の意見交換会があると建設的な意見が出てくる可能性は高まると思います。しかし、その意見交換会も何等かの理由により参加者があまりいないようであれば理事数を増加するなどの方法でより広く意見を集める手段を講じる必要が出てくるのではないかと思います。
- 執行部の皆さんの負担があまり増えないような方向でお願い致します。